紀伊民報
2011年(平成23年)1月6日 木曜日 第20481号 (12)

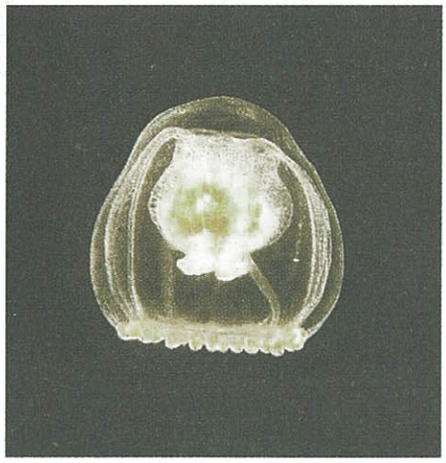
日本一のクラゲ天国 田辺湾

ベニクラゲ

久保田 信

5

「クラゲの中のクラゲは?」と聞かれれば「ベニクラゲ」と即答する。それはこのクラゲ以上にすごい生命を持ったクラゲ、否、多細胞動物はいないからである。永遠の命、つまり〝不老不死〟だから。



△ 田辺湾で採集したベニクラゲの雌

通常のクラゲは、有性生殖すると死を迎えて溶けずに肉団子状になり、再び走根を延ばし若い体のポリプへ戻る。このポリプがクラゲ芽を形成し、やがてクラゲとして分離して泳ぎ出す。この一連のサイクルを無限に繰り返すのだ。私は、わが国のベニクラゲを用いて現時点で8回の若返りの世界記録を達成している。老化や生命の秘密の研究材料として、将来、注目される生き物としてみている。

田辺湾で夏から秋にかけてプランクトンネットをひくと、ベニクラゲが捕れる。画像で示したのは雌で、真ん中の部分の口柄(こうへい)の上部が胃袋で、その周りが生殖巣である。たくさんの丸い卵をつくり、成熟していることが分かる。ただし、触手はネットびきで取れてしまった。

画像のような大人のクラゲになる前、若いポリプの姿で海底でくらしている。そのポリプには〝根と茎と花の部分〟があって、まるで植物のように妖しく美しい。人を苦しめるほどの毒は持っていないので、手で触ってもどうってことはない。

肝心の若返りであるが、生殖して子どもをつくるクラゲは、私たち人間や他の動物と同じように死すべき最後の姿なのだが、ベニクラゲだけは死なず、たった数日で若いポリプに戻ってしまう。無限に繰り返すのだから、いま採集したものが1億歳という可能性もあるわけだ。もちろん、生物として生き残るため、子づくりもきちんとして、新しいDNAを持った子孫も残している。(京都大学准教授)